米作り体験隊　　第 1 回　報告　　平成２８年（２０１６）６月

６月１８日（土）寺田縄の水田に苗を植えました。
お米の品種は「きぬひかり」です。命名の由来は、炊き上りのお米に絹糸のような光沢があることです。
食べてみてください、ソフトな口当たりで、さっぱりとした食感が味わえます。今年の秋には収穫され食卓にのぼります。口いっぱいにほおばることを、楽しみにしてください。

田んぼに入った感触は如何でしたか？　めったに経験したことがなく、衣服が汚れても怒られることなく、足をとられ、ふらつきながら苗を植えました。　ズブズブと深くもぐりこみそうに思えますが、意外です。下は固く体を支えてくれました。　今日の感触を忘れられないと思います。

梅雨期とはいえ、今日は晴天です。
周辺の住所は「平塚市寺田縄」です。平塚から北の伊勢原市を含め、この一帯は、神奈川県内でもお米の栽培（水稲耕作）が盛んな「穀倉地帯・田園地帯」となっています。
写真に写る三角形の山は「大山（おおやま）」といいます。左に続く山並みは、「丹沢山塊（たんざわさんかい）」とよばれる大きな山地となっています。

田んぼには水が必要です。寺田縄の水田で使う農業用水は、大山の西肩部・春嶽山（はるたけさん）に水源をもつ「金目川」から取水しています。

写真は、開会の準備にあたる、ハッパ会の方々とその軽トラック群です。

田んぼの北に大山、小田原厚木道路をまたぐ陸橋、水田や畑が望めます。
大山は標高１２５２ｍの山で、阿夫利神社（あふり）、大山寺を擁し、「阿夫利山」「雨降（あめふ）り山」と呼ばれています。農業とのつながりが深く、雨乞いの山として農民から厚い信仰の山となっています。

大山を含む大きな山容の丹沢山塊は火山噴火により山となったのではなく、はるか南の海底火山がその誕生の源です。海底に作られた火山は、「フィリピン海プレート」に乗せられ、北北西方向に運ばれ、日本列島の一部となりました。伊豆半島があとを追うように丹沢とぶつかり、その頃の山容は今とは比較にならないくらい大きく、高い山々となりました。長い年月を経て風雨が山々を削り、金目川などの多くの河川が土砂を運び、相模平野を作りました。　　＜大山・相模平野の誕生の話です＞

東側から田んぼを見ています。

手前が試験農場、軽トラ、ビニールハウス（イチゴが栽培されます）。

空が澄んで見通しがきくときには、この方角に、富士山が手に取るように見えます。

ハッパ会の会長さんの「石塚さん」です。豊作を祈念じているのでしょうか・・・

栽培された苗が並びます。この苗は、５月２４日から苗作りが始められ育てられました。種もみを「芽だしの装置」に入れ、温度３０度に保ち、２日間ほど寝かせます。その後電気を止め、ハウスに入れ一日。そして初めて外に出し、天日に当てます。苗は手間暇かけて大切に育てられました。

手にしたように苗はブロックとして育てられます。ブロックのピースごとに「田植え機」にセットされ、植えられてゆきます。苗のかたまりが「たわし」のように見えますが、田植え機に並べ、機械力で植えこまれるからです。

南の方角です。写真写りが悪いですが、この方角が湘南平、そして大磯、湘南の海岸へと続きます。

茂みは「花菜ガーデン」、見ごたえのある春のバラの季節は過ぎました。今度は秋です。

右手に大きなイチゴのハウスです。田植えの前、５月の連休頃まで、イチゴのもぎ取りで、沢山の人々で賑わいました。

機械植えの「田植え機」です。
苗が満載、手植えでは敵いません。
機械力がはるかに勝ります。

田んぼに沿う農道での開式です。
「ハッパ会」、「平塚市担当者」、「花菜ガーデン担当者」が紹介されました。

この周辺は「花アグリ」地域と呼ばれ、「花菜ガーデン」。野菜などの直販場の「あさつゆ広場」。「市民農園」。「イチゴハウス」。ボランティアによる「花の会」と「私的な菜園」等の施設が集まっています。「花アグリ」とは「花」と「農」とを意味する、付近の総称です。
緑に囲まれた地域は、一日中、ウォーキングで歩く市民たちが絶えません。

田んぼに入っての説明です。
・植える苗の本数、分量。
・目印のロープに沿って植える。
・手植えの場合は後ろに下がりながら植えるのが通常、でも、今回は前に進みながら植えます。
（後退では、足跡のくぼみの位置が乱れ、植え揃うことが難しくなります）

植え方の実演と伝達です。近年の農家の方々は機械植えが主流です。手植えで田んぼに植え上げる農家さんは居なくなってしまったとのことです。

子どもたちにとっての魅力。
小さな魚。ザリガニ。オタマジャクシ。
採集用具が揃えられていました。

田植えの開始です。

こちらの組は、自称「田植えのベテラン」。　以前、この会に参加した田植えの経験者たちです。

こちらは、足並みがそろいません。

初めて田んぼに踏み入れる人たち。お子さんも加わり、どことなく、足の運びがおっかなびっくりに見えます。　でも、植え進むうちに、足元の感触はすぐに慣れます。

もう大丈夫かな。　植え始めている人もいます。

田んぼの中へ苗が投げ込まれ、まずは苗のある所まで植え進みます。

三人が、足並みそろえ、

一、二の三

ベテラン組、さすが、姿勢・手つきもどうに入っています。

植え進み、両者の距離が狭められてきました。

振り返ると・・・足跡が目立ちます。　　苗はどこに植えたかな？

ベテラン組との距離は詰まりました。
苗を植える姿の違いは分からなくなりました。　上達です。

両者植え進み、もう、目と鼻の先。田んぼに足をとられながら進んできました。

最後の一列。これで田植えは完了です。

皆が頑張った、手植えはこうなりました。

植えられた苗の本数の違いは・・・。

機械で植えるとこうなります。秋になり、借り入れるときも機械で行います。そのためには、このように整然としていなければなりません。

今日の田植えは終了です。ハッパ会の会長さんの笑顔が、終わったことの安堵を表しています。

けが人はなく。　田んぼの中で転んだ人もなく。　田んぼから解放され、自由の身になりました。

おいしいご飯が食べられるのは、田んぼからとれるお米ですし、苗の手植えが無いとはいえ、機械力を駆使する農家さんの活躍があるからです。

次回は「田の草取り」です。
稲が生長するにあわせ、田んぼの中の雑草も成長します。どの様な雑草が生えるかな。
観察してください。

次回までの田んぼの様子、周辺の季節の移ろいなどを紹介してまいります。　　（片山記）